

# エネルギー・セキユリテイーの 確保は石油会社の責務

出光興産社長 月岡 隆氏

ノルウェー、北海、ベトナムで  
原油、豪州では石炭を開発

**本誌** シェールガス革命で世界のエネルギーの流れが大きく変わっていますが。

**月岡** エネルギーの95%以上を海外に依存している日本には、エネルギーの選択の余地はありません。無資源国の日本にあつては、グローバルな視点を持ってエネルギー・セキユリテイーを確保していくことが求められており、石油をはじめ、石炭、LNG（液化天然ガス）、原子力、再生エネルギーなどあらゆる選択肢を確保し、いつでも使えるようにしておくことが必要です。このため、当社ではエネルギー・セキユリテイーの確保は石油会社の責務と考え、既にノルウェー、北海英国領、ベトナムでの原油開発、さらにオースト

リアでの石炭開発やカナダでのウラン開発など行っていますが、2013年4月から「日本のエネルギー・セキユリテイーへの貢献」や「アジア諸国の経済発展への貢献」などを主なテーマに掲げた第4次中期経営計画をスタートさせ、エネルギーの第一層のグローバル化を進めています。

**本誌** カナダのアルタガス社との事業提携や同国のベドロガス社に資本参加することで、シェールガスを含めたLNGプロジェクトなどを進めていますね。

**月岡** カナダは世界第5位のLNG産出国ですが、輸出先の米国でシェールガス革命が起き、新たな輸出先の開拓を迫られてアジアに大きな関心を示していました。同国は西海岸から輸出する手段を持っていないことから、当社では2013年

1月にカナダ内陸部から西海岸につながる同国唯一のパイプラインを持つガス・インフラ企業のアルタガス社とLNGなどのアジア向け輸出の可能性を調査する合弁会社を設立しました。今後、同国産の天然ガス等を市場調達し、早ければ2017年中には年間200万トンのLNGを日本向けに輸出する予定です。さらに、この合弁会社を通じて10月には

ベトロガス社と資本関係を結びました。これはベトロガス社が保有する太平洋岸につながる物流施設に着目し、液化石油ガス(LPG)の早期輸出に繋げようとしたものです。ガスそのものではなく物流を含むバリューチェーンを構築することがガスの調達力強化に不可欠と考えています。

ベトナムにクウエート国際石油  
など3社と製油所建設

**本誌** ベトナムでは製油所の建設を始めましたね。

**月岡** 当社では、三井化学、クウエート国際石油、ベトナムの石油会社・ペトロベトナムの3社とベトナムのニソンに合弁会社、NSRP（ニソンリアファイナリー・ペトロケミカルリミテッド）を設立し、約90億米ドルを投じてニソン製油所・石油化学コンプレックスの建設を進めています。このうち当社の負担分は約14億米ドルで、2013年10月に起工式を行い、2016年の完工・試運転、2017年の商業運転開始を目指しています。ただ、この製油所建設も単に利益を目的としたものではなく、産油国のクウエートとベトナムとの関係強化を図りつつ、新興国でもあるベトナムが必要とするビジネスをサポートしていくプロジェクトでエネルギー・セキユリテイーの



月岡 隆 (つきおか・たかし) 氏

1951年5月生まれ。東京都出身。1975年・慶応義塾大学法学部卒業、同年出光興産入社。2001年・販売部次長。2002年・神戸支店長。2005年・中部支店長。2007年・執行役員需給部長、2009年・取締役需給部長。2010年・常務取締役経営企画部長。2012年・代表取締役副社長。2013年・代表取締役社長に就任。

リンスタンドの減少は続いており、当社を支えてくれた販売店さんの廃業も増えています。ただ、当社の販売店さんはコスト競争力がありませんので、全国24の販売支店が中心となって経営者を応援するなど知恵をしばってサポートしたいと思っています。また、ネットワークを見直すとともに、

この精神は当社社員に受け継がれていますが、さらに研修会などで再確認することも行っています。グローバル化にあたっては、現地の人の考えを尊重し、ローカルの文化や慣習など理解することが最も重要です。今後、当社の企業理念を持って海外で活躍できる人材の育成を図るとともに、石油を基盤にガスや再生エネルギーなどの取り組みも進め、事業を通じて社会の発展に貢献してまいります。

意味合いも持った投資です。  
**本誌** 中期経営計画では「出光の独自技術を活かした環境調和型社会への貢献」もテーマに掲げていますが、  
**月岡** 石油会社である当社は将来にわたって日本のエネルギー供給を果たす責任があります。それにはエネルギーソースや調達先の多様化に加え、省エネ製品の開発などにより化石燃料の消費を抑えることも必要です。当社では自社技術を活かして省エネにつながる潤滑油や有機ELなどの開発を進めており、新開発の高性能潤滑油は多くのカーメーカーに採用され、ガソリンの消費量を減らし、CO2削減の一助になっています。

ます。今後もこうした省エネ商品の開発に努め、環境調和型社会の構築に貢献していきたいと考えています。  
**本誌** 地熱や太陽光発電など再生可能エネルギーの開発にも力を入れていますね。  
**月岡** 当社は1979年の第二次オイルショックの経験を踏まえ、石油の代替エネルギーを模索し、地熱に着目しました。日本は世界二位の地熱大国であるうえ、地熱発電は利用率が高く、自然の力を活かした再生可能エネルギーの中で、最も安定的に電力を供給できるエネルギーです。当社では大分県九重町で九州電力に地熱蒸気の供給を行っているほ

か、北海道や秋田県などで地熱発電に向けた構造試験井の掘削を進めています。  
 また、福岡県北九州市では2013年11月から当社初のメガソーラー（大規模太陽光発電所）の運転を開始し、2014年春には兵庫県姫路市で第二弾となるメガソーラーを稼働させる予定です。このほか、将来の燃料電池車の普及に向けた水素供給インフラに関する技術開発も進めています。  
**本誌** 国内ではガソリンスタンドの減少に歯止がかかっていますね。  
**月岡** ガソリンの需要が減退しマーケットがシュリンクする中、ガソ

地域の状況に応じた施策により販売の強化を図ります。  
**本誌** 百田尚樹氏の「海賊とよばれた男」など出光興産の創業者、出光佐三氏に焦点を当てた小説が注目されていますね。  
**月岡** 出光佐三氏は創業以来「社会は人間がつくったもの。人間のためだけの社会である。社会の中心は人間でなければならぬ」と人間尊重を理念に企業経営を行った人です。そして、「海賊とよばれた男」での日章丸事件のように、自分の会社だけが良くなればよいのではなく、大所高所から国全体が良くなることを考え、常に顧客や社会にとって良いことを優先した経営を行っていました。この精神は当社社員に受け継がれていますが、さらに研修会などで再確認することも行っています。グローバル化にあたっては、現地の人の考えを尊重し、ローカルの文化や慣習など理解することが最も重要です。今後、当社の企業理念を持って海外で活躍できる人材の育成を図るとともに、石油を基盤にガスや再生エネルギーなどの取り組みも進め、事業を通じて社会の発展に貢献してまいります。